

# ピアノホームだより

2025. 2. 10

## 統合失調症のドキュメンタリー

初めて精神病を取り上げた映画は、1975年「カッコーの巣の上で」で、アメリカ精神病院の実態を暴いたものでした。それから4半世紀、2002年日本公開された「ビューティフルマインド」は精神病者の生きる希望が描かれたと思います。

本邦では、ドキュメンタリー映画として2008年制作された想田監督の「精神」があります。岡山の精神作業所を記録し精神病者の生活を描いたものです。

昨年、畑奉枝さんの「いつかの涙を光にかえて」の講演と書籍に出会い、また、衝撃的なドキュメンタリー「どうすればよかったのか？」に出会いました。今回、これらの作品に触れてみたいと思います。

### 1. いつかの涙を光にかえて

#### —畑奉枝さんの体験—

奉枝さんには、3つ年上のお兄さんがいます。お兄さんが習っていたピアノが羨ましくて、奉枝さんもピアノを弾くようになりました。優秀なお兄さんと比較されてばかりで、少々窮屈な幼少期を過ごされたようです。

お兄さんが高校受験にさしかかった頃、暴力がはじまりました。奉枝さんは、お兄さんの異変をご両親に訴えましたが、受験でイライラしているだけだと取り合ってもらえませんでした。アザだらけだったそうです。奉枝さんが高校2年生のとき、お兄さんに統合失調症の診断がつけました。お兄さんは、すっかりピアノを弾かなくなっていました。

代わりに、ピアノを続けていたのは奉枝さんです。やがて、ピアニストとしても活動するようになり、家を出られました。そんなとき、奉枝さんは骨董品店でトイピアノに出会います。トイピアノの音色に魅了された奉枝さんは、トイピアノのみでのコンサートを行うようになりました。

ふと立ち寄った実家で、トイピアノを見かけたお兄さんは、突如トイピアノを弾き始めます。流れ出した音色は数十分間止まらず、「とめどなくあふれてくる音に涙が止まらなかった」そうです。驚いてほめる奉枝さんにお兄さんは、「普通のピアノはちゃんとせんといかん感じがしてしんどい。けど、トイピアノはおもちゃやろ。不完全な存在でも受け入れてくれる気がする」と答えたそうです。

それから、お兄さんは即興で奏でた旋律を録音して、奉枝さんに送ってくれるようになります。「音を聞けばその時の心の動きがとてもよく伝わってくる」と言い、トイピアノが、コミュニケーションツールになったの

です。奉枝さんは、「今は私のことを一番理解して応援してくれているのが兄」と仰っています。発病から、約30年が経っていました。

### 2. 話題の映画「どうすればよかったのか？」

ドキュメンタリー監督となった藤野監督が、統合失調症の姉と、彼女を精神科の受診から遠ざけた両親の姿を20年にわたって自ら記録したドキュメンタリー映画です。

優秀な8歳上の姉。両親の影響から医師を目指して医学部に進学した彼女が、ある日突然症状が出現、統合失調症が疑われましたが、医師で研究者でもある父と母は病気だと認めず精神科の受診から彼女を遠ざけました。疑問を感じた藤野監督は両親を説得するものの解決には至らず、わだかまりを抱えたまま実家を離れました。

18年後、映像制作を学んだ藤野監督は帰省するたびに家族の様子を記録するようになりました。両親と対話を重ね、姉に声をかけ続けるも状況はさらに悪化、ついに両親は玄関に鎖と南京錠をかけて姉を閉じ込めるようになってしまいました。(紹介文より)

発病は1980年頃？当時の精神病を巡る社会環境を思い起こすことになりました。

### 2月の予定

2月:4名の個別支援計画